

もっ／

行きたい



遊んで学べる
こどものための
博物館

新しい発見や感動に出会える施設

オススメ1



科学の不思議、世界の文化や遊びとの出会い等、遊びながら学べる展示物やいろいろなものづくり体験等のワークショップがいっぱい。

オススメ2



小さなお子さまと一緒に安心！
乳幼児のお子さまがゆったりくつろげ、
トイレ（一部）にはおむつ替えスペース
やおもらしシャワーを設置。



こどものための博物館
キッズプラザ大阪
(一財)大阪教育文化振興財団



じかん
おやつ

9:30 ~ 17:00 ※入場券の発売は開館45分前まで

第2・第3月曜日（祝日の場合は翌日）

8月は第4月曜日のみ 年末年始（12/28～1/2）臨時休館あり

〒530-0025 大阪市北区扇町 2-1-7 TEL: 06-6311-6601



おおさか

歴史
探訪

192

大阪の史跡や歴史
資料を毎月連続で
ご紹介します。

いたちがわ かんすけばし

鼬川と勘助橋 — 難波・木津の幹線水路とその痕跡

南海電鉄なんば駅の周辺からその南西の一帯は、近世には難波村・木津村という大坂三郷の市街地に隣接した近郊農村地帯でした。上町台地の西側に南北に延びる難波砂堆にあり、水捌けのよい砂地を利用して畠作を中心に農業が行われていました。

大阪湾に面した難波砂堆は、浜堤の発達により徐々に陸化しました。現在の国道26号線付近を境に東側は古代～中世初め頃までの間に、それ以西はその後に順次陸化していったことが発掘調査成果から明らかにされています。土地が安定すると農地として利用されるようになり、古代～中世初め頃までに陸化した一帯は中世の間に耕地化し、これよりも西側の沿海部は一部をのぞき近世以降に耕地化していきました。

これら農地の灌漑を支えたのが鼬川でした。鼬川は上町台地の西縁部の谷水に端を発し、難波村と木津村の境を通り木津川へと流れていました。用水と排水の機能を兼ねた幹線水路であったようです。文化3(1806)年の絵図『増修改正摂州大阪地図』をみると、堤防に設けた取排水口や堰などを使用して用排水を行っていたようすがうかがえます。

鼬川は昭和10～20年代に埋め立てられて現在は残っていませんが、流路は概ね道路として痕跡をとどめています。また、鼬川に架けられていた複数の橋のうちの1つで、木津村に居住した土木技術者で木津川の治水や周辺の開発に尽力したことなどで知られる木津勘助（本名：中村勘助）が架けた「勘助橋」は、橋が架けられていた道が現在「勘助橋筋」と呼ばれて橋の名前が残っているほか、橋のあった場所に近い鵜町公園内に「勘助橋跡」の石碑が建てられています。

（大阪市教育委員会事務局 文化財保護課）



勘助橋跡の石碑（浪速区
敷津西1丁目）